



News Release

2026 年 10 月 30 日

各 位

会 社 名 栄 研 化 学 株 式 会 社
代 表 者 名 代表執行役社長 瀬川 雄司
コード番号 4549 東証プライム

GHIT Fund研究開発プロジェクト採択に関するお知らせ ～エボラウイルス病対策に資する迅速診断システムの開発を推進～

栄研化学株式会社（本社：東京都千代田区、以下「当社」）は、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT Fund）^{*1}に申請しておりました、エボラウイルス病対策に資する迅速診断システムの開発事業（以下「本事業」）が、このたび同基金の研究開発プロジェクトとして採択されましたので、お知らせいたします。

現在、コンゴ民主共和国とウガンダを中心にエボラウイルス病の原因ウイルスの一つであるブンディブギョウイルス（Bundibugyo virus : BDBV）によるエボラウイルス病が拡大しており、10月25日時点で10,091症例（うち死亡例は4,891症例）が確認されており、まさに対応が求められている公衆衛生上の脅威となっています。本事業では、BDBVを対象とするLAMP法^{*2}を用いた検査薬のプロトタイプ開発を進めます。当社を研究代表機関として、迅速かつ特異的にBDBVを検出できる診断システムの構築に取り組みます。開発にあたっては、既存のリアルタイムPCR法と同等の感度を維持しつつ、15分で判定可能な仕様を想定しています。また、複数のリアルタイムPCR装置で使用可能な検査システムとすることで、専用の新たな検査機器への設備投資を抑えながら、感染症流行時に迅速な検査体制の整備に貢献します。

エボラウイルス病は、流行時に医療体制へ大きな負担を与える深刻な感染症です。特にBDBVについては検査手段が限られており、感染者を早期に特定し、適切な隔離、診療および接触者対応につなげるためには、迅速で利用しやすい検査体制の整備が重要です。本事業では、LAMP法の迅速かつ精確な遺伝子増幅が可能である特長を活かし、100日ミッション^{*3}の考え方のもと、短期間でのプロトタイプ開発完了を目指します。

当社は、本事業を通じてエボラウイルス病の感染拡大抑制と将来の流行への備えに寄与するとともに、引き続きグローバルヘルスの課題解決に貢献してまいります。

*¹ GHIT Fund：日本政府、民間企業、ゲイツ財団等が参画する日本発の国際的な官民パートナーシップ。マラリア、結核、顧みられない熱帯病（NTDs）など、開発途上国を中心に蔓延する感染症に対する治療薬、ワクチン、診断薬等の研究開発を支援しています。

*² LAMP 法（Loop-mediated Isothermal Amplification）：当社が開発した、一定温度で核酸を増幅する遺伝子増幅法です。

*³ 100 日ミッション：新たな感染症パンデミックの脅威を特定してから 100 日以内に、安全性、有効性および入手可能性を備えた診断薬、治療薬、ワクチンを利用可能にすることを目指す国際的な取り組みです。

本件に関するお問い合わせ先

栄研化学株式会社 サステナビリティ推進部

TEL: 03(5846)3379、e-mail: koho@eiken.co.jp

ホームページ <https://www.eiken.co.jp>